

開かれた山桜会を実現しよう



校友会 山桜会 会長 川原 俊明

はじめに

早くも師走を迎え、時の流れの速さを感じます。

会員の皆様、新型インフルエンザ流行の兆しの折、体力をつけて、元気でお過ごしいただきたいと思います。

学院では、この数年、創立120周年記念事業の一環として、幼稚園から大学まで、校舎新築ラッシュが続きました。今年8月、大学一号館の竣工式をもって、ようやくハード面の整備が完成しました。あとは、学院として、如何に、ソフトの充実ができるか、にかかっています。

母校支援を標榜する山桜会として、約3万人を誇る卒業生の人脈を生かし、母校のソフト拡充に最大限の努力を惜しみません。

大手前・茨木・両中高創立60周年

来年は、両中高の創立60周年記念事業が行われます。

早いもので、偕行社・追手門学院小学校を基盤とした学院が、大手前の隣接地に中高を創立し、60年が経過しました。

その後、茨木の地に、新たに中高が建設されました。

同じ学校法人の二つの中高でありながら、互いに遠隔地のため、従来は、どうしても疎遠になりがちでした。しかし、近時、教員間交流、生徒間交流、PTA交流が盛んになっています。

山桜会の立場からすれば、大手前、茨木、を問わず、みんな、同じ校歌を歌い、同じ独立自彊の建学の精神を背負う学院の仲間たちです。卒業後に、同じ追手門出身者として交流し、互いの人脈で助け合う関係ならば、在学中から、いっそうの交流が望ましいのは言うまでもありません。

両中高の団結で、学院として、大きな力を築きましょう。山桜会は、両中高創立60周年記念事業に全面協力したいと思います。

卒業生は、人的財産

近年、山桜会は、学院からようやく評価される存在になりました。それは、山桜会が非常に活発な同窓会活動を展開してきたからです。

私学にとって、卒業生は、人的財産です。学院は、卒業生の活躍に期待しています。卒業生は、これに応えなければなりません。学院の発展と、卒業生の活躍は、相互評価につながるのです。

今年の竜田邦明先輩(小64 中高7 早稲田大学理工学術院教授)が、永年の有機合成化学等の研究で日本学士院賞を受賞されたのも、その典型でしょう。

また、少子化現象のなかでも、学院と卒業生の強固な絆があれば、卒業生が、志願者数の減少に歯止めをかける大きな要因となるでしょう。

開かれた山桜会

いずれにしても、校友会山桜会は、すべての卒業生のためにあります。山桜会は、「開かれた山桜会」でなければなりません。山桜会

の同窓活動は、老若男女を問わず、すべての卒業生に向けられたものでなければならないのです。

私たち執行部の自己満足にとどまった活動であってははいけません。多くの会員が、当然のように山桜会帰属意識を持ち、山桜会活動に参加するのがあたりまえ、と思える同窓会活動であるべきです。多くの卒業生が、追手門卒業生を自覚していても、「山桜会帰属」意識が希薄である、という現実。

歴代の執行部が、たえず悩んでいるのは、まさにこの点です。

同窓会サポートチーム

近時の山桜会理事会で、同窓会サポートチームを発足させました。

山桜会自体が、積極的に卒業生の同窓会に関わり、個々の卒業生の山桜会帰属意識を高めよう、というものです。

追手門の卒業生同士は、仲間意識が高く、団結力があります。これは、伝統的な評価です。

同期の同窓会は、様々な形で自発的に活発に開かれています。

山桜会は、卒業生の皆さんが、独自で開催される同期の同窓会を、バックアップし、まとめ役の幹事さんとのつながりを強化したい、と考えています。

これが実現すれば、卒業生の山桜会帰属意識が高まり、山桜会活動の裾野が広がります。「開かれた山桜会」が実現されるのです。

おそらく、年会費のご負担も、もっとご理解を得られることでしょう。

次世代の育成

私たち執行部の不安は、山桜会活動に、若い世代の関与が少ないことです。

山桜会創設90年の歴史は、多くの先輩たちの活動が原点にあります。私たち現執行部も、この歴史を継承してきました。そして、次の活動世代を育成し、彼らに継承していかなければなりません。

山桜会を担う若い世代の台頭が不可避です。

校友会山桜会の活動は、母校を担う、という大きな役割を抱えているのです。

この意味でも、山桜会活動に、多くの若い世代の卒業生が積極的に参加していただくことを切に望みます。

新年会のお誘い

私たちは、「開かれた山桜会」を実現し、卒業生のみならず、大学校友会、PTA、先生方、現役生徒との交流を深めることにより、母校支援の強力な輪をますます大きくしたい、と考えています。

その活動の一環として、例年1月に、山桜会新年会を開催しています。ここには、多くの人々との出会いがあります。

楽しいイベントとともに、充実した一日をお過ごしください。

皆様のご来場をお待ちしております。